



現在は生活空間の変化にともない、世代の異なる人びとが共に生活していくなかで、生きるための経験・知識を共有し、伝承していく場が失われつつあります。そこで家庭・学校・地域でなかなか伝承されなくなった生活体験・生活伝承を、子どもたちに伝えることを目指しました。

児童教育学科の大江ゼミ3年生が主体となって、尼崎市を中心に活動を展開している子育て支援の「NPO法人やんちゃんこ」様をはじめ、「株式会社栄水化学」様にもご協力いただき、生活体験・生活伝承の一つとして「掃除」に注目して、1年間さまざまなプログラムを計画・実施しました。

お掃除方法を子どもたちに伝えるには、

「子どもたちにとっての目的」として「掃除をすることを楽しむ／掃除用品を作ることを楽しむ／再利用の大切さを知る」を掲げました。教える側の「自分たちにとっての目標」は「子どもたちに楽しんでもらう／子どもたちに目的を伝える／自分たちも楽しむ」としました。これらの目標を実現するために、事前に計画を練り、しっかりと打ち合わせを行うなどを心がけました。

1年間を通して、以下3企画を実施しました。Vol.1「みんなでいるんなものを作ってみよう！」では、阪急塚口駅南口近くの「ぶらっと！」や本学で、マーブルクレヨンやアクリルたわしをつくりました。

Vol.2「自分たちで作った掃除道具で、掃

除の楽しさを知ろう！」では、豊岡市立清滝小学校を訪問し、はぎれハタキやスリッパモップをつくり、小学校3年生の子どもたちと学びました。Vol.3「お掃除の達人になろう！」では、尼崎市立杭瀬小学校を訪問し、1年生3クラス88名の子どもたちに「正しいぞうきんの絞り方・拭き方講座」と「正しいほうきの使い方講座」を開講しました。

活動の初期は、学生にも戸惑いがみられましたが、回数を重ねるごとに学生同士も打ち解けていきました。お掃除という身近な体験を通じて、保護者・学生・子どもたちという異なる世代をつないだプロジェクトとなりました。



つなGirlコーナー

～つなGirl 次への一步へ～

初めまして！平成29年度つなGirlの委員長になりました、さえちゃんです。多くの学生が地域の方とつながりを深められるよう、精一杯頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

昨年度は、「深めよう！つながりの輪～もっと身近に！もっと強く！～」を目標に活動してきました。学内では、「尼崎巡りツアー」を行い、尼崎の穴場である「あまば」を広げることができ、地域の方の身近な存在になることができました。また、ボランティアの敷居を低くするため、「一番いい笑顔で賞」を募集しました。学外では、「エコあまフェスタ」、「尼崎JCKキ

ャンプ」、「キッズフェスティバル」、「尼牟奉納祭」、「つなパラ」など、地域のニーズに合った活動を行うことができました。このような活動の成果から、一般社団法人学生サポートセンターより「学生ボランティア団体支援事業」に採択、表彰されました！

足立4年目となる今年度は、「つなげよう尼崎と学生の輪～あまがさきを私たちのホームへ～」を目標にします。この目標は、地域と学生のつながりを深めたいという、つなGirlの願いから生まれました。今年度は、宣伝に力を入れていきます。具体的な取り組みとして、つなGirlのブログの



活用や、つなGirlの活動写真を掲示します。つなGirlの活動写真を見て、ボランティアの楽しさを知ってもらい、つなGirlを学生の身近な存在に感じる人が増えることを願っています。

つなGirl一同、楽しく活動していきますのでよろしくお願ひします！！

Newsletter

園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部 地域連携推進機構
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1 TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523 E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



全学科必修科目 地域志向科目

つながりプロジェクト始動！！



2017年4月3日（月）、本学講堂にて、今年度つながりプロジェクトの第1限、2限が行われました。まず川島明子学長から、本学の沿革や建学の精神について、また本学が取り組んできた経験値教育とつながりプロジェクトの目的・概要について、以下のような講話がありました。

本学は開学以来、建学の精神である「捨我精進」に基づく、「経験値教育により他者と支えあう人間の育成」を目指しています。そして「地域と共に歩む大学」として、地域に拓かれた大学づくりを推進してきました。また、本学ではディプロマポリシー（学位授与の方針）として、建学の精神・教育理念に基づく教育課程を履修し、「女性」「地域」「実学」の3つのキーワードにそった能力を身につけることを定めています。すなわち、①学修を通して、健康・教育への理解を深め、社会的、精神的、経済的に自立した女性として自ら行動する力、②地域社会での経験のなかで、他者を尊重し支える態度を身につけ、他者

の気持ちに気づく力、③多様化する社会が直面する課題を発見し、解決するために考えぬく力、です。

本学が掲げる「経験値教育」とは、大学生活のなかでさまざまなことにチャレンジし、経験を積み重ねていく過程で自己の経験を客観化し、知恵に変え、その蓄積を成長の糧とする教育です。特に、大学が立地する尼崎市を中心として「健康づくり」「学校教育」「生涯学習」「子ども・子育て支援」の4つのテーマを設け、地域の拠点として地域課題の解決の一翼を担っていくことが、〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラムです。昨年度から始まった地域志向科目つながりプロジェクトもまた、経験値を重ねるための場のひとつであり、全国的に大きな注目を集めている試みです。2年生全員340名が、尼崎市の4つのテーマについて学部学科を横断し、市内の行政、NPO、自治会などの地域団体と提携して、地域で総合的に学習します。21プロジェクトそれぞれの成果は、地域課

題の解決策としてポスター発表で提言していきます。実際に地域に出て、尼崎市の特性と課題を学び、体験し、皆さん自身が大学で学ぶことの意義と責任、地域社会で自己が担うべき役割などを学んで頂きたいと思ひます。

今後はそれぞれのプロジェクトに分かれ、多彩な講義、実践を展開していきます。自ら学ぶ力、気づく力、考えぬく力、コミュニケーション力、協働する力を身につけ、多面的に課題に向き合える人間となり、学び、活性化した地域社会の実現への貢献を目指してください。

当日は大江篤教授からも尼崎市の特性と課題、地域社会について学ぶ意義について、また経験値教育を評価する経験値評価システムについてのガイダンスが行われました。本年度はつながりプロジェクトの最終成果発表会を2018年1月20日に実施予定です。発表会にむけて、2年生の挑戦が始まりました。



尼っ子のスポーツ振興プロジェクト

尼崎の子どもたちの競技力向上やスポーツ好きの子どもを増加させ、心身健康な育成の力になれるよう、小中学生対象にスポーツ教室の開催を中心に活動しました。内容をご紹介します。

■活動内容

1. クラブ代表者勉強会

クラブ代表者の参加で、指導者に必要な知識の習得とグループ討議・発表を行った。競技によりスポーツ事故への危険予知や対処方法が違うことを知り、リスクマネジメントに対する意識が高まりました。

2. ソフトボール教室

市内女子中学生127名を対象に競技力と体力の関係の話をした後、実技はキャッチボール・ゴロ捕球・バットスイング・ピッチング等の技術指導を行いました。基本動作の「捕る」「投げる」「打つ」を中心に、ピッチングではウィンドミル投法にもチャレンジしました。最後は大学生のプレーを見て学び、イメージする機会にもなりました。

3. 陸上競技教室

市内男女中学生110名を対象に短距離・三段跳び・棒高跳びの種目別に指導

をしました。短距離は接地ドリルや補強運動、三段跳びでは空中姿勢のイメージ、バウンディング等、棒高跳びはジャンプのタイミング等の練習を行いました。専門種目を習う機会となりました。

4. バレーボール教室

市内女子中学生28名を対象にリズム体操でW-up後、キャッチボール・正面レシーブ・3人レシーブ・スパイク・ブロック・サーブ等の指導をしました。競技経験が少ない受講生が多かった為、少しでもバレーボールの楽しさを伝える努力をしました。「アドバイスすると一生懸命取り組んでくれ、技術習得した笑顔を見ると、指導することがとても楽しく感じました。」

(学生感想)

■まとめ

各競技で、動画撮影し、即フィードバックを行いました。大変好評で、動きの改善方法がイメージできる。後で比較ができるのでわかりやすくよかったです。などの意見でした。

尼崎の子どもたちにとつ



て、楽しい時間、学べる時間、スポーツをさらに好きにする、競技を継続したい、また教室に参加したい、と思えるような内容を学生たちと考え、実行することができました。

結果、約250名の受講者が得ることができ、目的でもあった、尼崎の競技力向上やスポーツ好きの子供を増加、心身健康な育成に少しでもお役に立てていれば幸甚です。学生にとってもスポーツを「する」だけではなく「支える」に触れたことにより、さらにスポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割を理解し、地域に貢献する意識が高まる機会となりました。

平成29年度は競技拡大予定です。



尼崎市に住む高齢者のための運動交流プロジェクト実践と普及



はじめに

本研究の目的は、尼崎市に住む高齢者のために考案したオリジナル音楽・運動を普及することによりその方々の筋力向上とコミュニティの拡大を目指すことにあります。

1. 平成28年度の活動について

1) プロジェクト名について

尼崎市の方々さらに愛される運動にしたいと考え、プロジェクト名を「～人つむぎ尼つむぎ～」としました。この運動は、あま紡ぎ運動(社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会(以下、尼崎市社会福祉協議会と称す))、あまやねん体操(社

会福祉法人きらくえんけま喜楽苑)、あま体操(運動グループ絆)として親しまれています。オリジナル音楽の制作・演奏は紡ぎ家が担当しています。

2) 定期的な運動の実施について

尼崎市立総合老人福祉センター、あま体操絆、猪名寺長生クラブ連絡会、中難波はなみずき会にて定期的実施しています。本学学生も参加し、交流しながら運動しました。

3) 運動の普及について

(1) 平成28年5月29日、「森の文化祭in 尼崎の森中央緑地」にて、地域の運動メンバー20人でリズム運動を披露し、来場者とともに実施しました。

(2) 大庄まつり(平成28年9月18日午前)に運動メンバー・学生と参加しました。

(3) 平成28年10月22日、本大学学園祭に参加しました。当日は、尼崎市総合老人福祉センター運動メンバー15名、あま体操絆メンバー15名、本学2年生7名、卒業生3名、バンド紡ぎ家、研究者、尼崎市社会福祉協議会による披露となりました。高齢者の運動成果発表の場となり、

今後も交流しながら運動を継続することになりました。

(4) 平成29年2月15日、「そうだ! 尼崎発の運動をしよう!」と題して、本学で講座を開催しました。

(5) 平成29年3月8日、「春だ! 尼やねん体操～基礎代謝をあげよう～」と題して社会福祉法人きらくえんけま喜楽苑主催で、バンド紡ぎ家、本学学生とともに講座を開催しました。

(6) この運動について新聞社4社に記事として掲載され、運動DVDに関する問い合わせが約60件ありました。

4) 新規の音楽・運動(CD・DVD第2弾)

音楽は、高齢者と学生の交流を描いた曲になっています。リズム運動は、新たに地域の方々や学生が共同で制作し、準備運動、整理運動は尼崎市社会福祉協議会が考案しました。筋力運動は、本学学生がモデルとナレーションを担当しました。

おわりに

今後も関係機関と協働・連携しながら、さらに実践・普及していききたいと思っています。



地域資源を活用したまちづくりモデル構築のために基礎的研究

—歴史文化遺産としての民俗文化財の発掘—



この研究は、魅力あるまちづくりを推進していくために、地域の資源としての歴史文化遺産を発掘し、地域住民の手で活用できるようなデータベースを作成するとともに、まち歩きやボランティアの人材育成等の企画を行うことを目的としています。地域の歴史文化遺産のなかでも、「文化財」未満である民間伝承や伝説を取り上げ、平成25年度から研究を継続してきました。平成28年度には、それまでの研究成果をふまえたデータベースから100話を選んで紹介、解説した『尼崎百物語』を刊行しました。

大江篤編著『尼崎百物語』(神戸新聞

総合出版センター)は、伝説データベースをもとに、尼崎市の6行政区にまたがる100話を選定したうえで、尼崎市立地域研究史料館と連携して編集しました。尼崎にまつわる伝説、伝承を紹介するとともに、研究成果をふまえたブックガイド、伝承地をめぐるま

ちあるきマップとしての性格を備えています。可能な限り現地踏査を行い、1話毎に写真を掲載しました。これらのことにより読者に地域の魅力を伝え、能動的な学びを喚起することができるよう企画しました。

また、100話の紹介とは別に尼崎の地域伝承の性格を明らかにするため、「土地の記憶を伝承すること」(大江篤)「水神信仰と住吉大社」(久禮旦雄)「近世・近代の「怪談」文化」(久留島元)「各地の残念さん信仰」(岡本真生)をテーマとした論考も収めました。

平成28年度からは、『尼崎百物語』

を地域歴史文化遺産として、市民が活用できるツールとするため、データベースの構築と制作に取りかかりました。このデータベースでは、各物語の典拠となった文献資料の書誌情報(国会図書館、尼崎市立中央図書館、尼崎市立地域研究史料館、園田学園女子大学図書館のOPACにリンク)及び地図情報を掲載します。

一方、書籍刊行後に調査を行い明らかとなった事項(長遠寺の火除けの大黒)や読者からいただいた情報(廣岡家と難波の梅)など調査・研究を継続しました。

また、地域の歴史遺産の子どもへの継承に視点をおいた大江篤「小学校社会科と民俗学-兵庫県の民俗文化財を中心に-」(『園田学園女子大学地域連携推進機構年報』第4号)をまとめました。

平成29年度中にデータベースを公開し、地域の方々から広く情報提供をいただければと考えています。地域と共に「成長するデータベース“尼崎百物語”」を目指します。



中学校向けタブレット端末活用リーフレットの作成

—授業における関心・意欲・態度の向上を目指して—

尼崎市立の各小学校には、平成27年度にコンピュータ室にタブレット端末40台が導入されており、中学校は今後環境整備が進められる予定です。本研究は、尼崎市立教育総合センター等と協働し、モデル校に設定した市内の中学校1校に、昨年度までに整備をしたタブレット端末等の機器類のほかに新たにプロジェクトを導入し、生徒の授業への関心・意欲・態度を向上させる実践を行い、中学校での端末活用の普及を目指したリーフレットの作成を目標としました。

作成したリーフレットには、中学校における1～2年生の5教科(保健体育、数学、理科、英語、特別支援教育)での動画撮影の活用や自作シミュレーションアプリを活用するなどの授業実践と、3年生の各教科でのタブレット端末を活用した基礎・基本事項のドリル教材の取り組みを紹介しました。

さらに、中学校の授業におけるタブレット端末導入が、生徒の関心・意欲・態度の向上にどの程度役立ったかを、保健体育(1年生)・単元「マット運動」

の授業において、単元の最初と最後に生徒にアンケートを実施し、41名のデータから分析しました。質問紙調査から、「知識理解・意欲」、「思考・表現」、「協働学習」、「タブレット端末の活用」の4つの因子で事前・事後の対応のあるt検定を行いました。有意差は見られませんでした。そこで、因子内の項目ごとについて事前・事後の分析を同様にt検定で行いました。その結果、「思考・表現」の因子を構成する「体育の授業で発表するときには、自分の考えや意見を他の人や先生に分かりやすく伝えることができていると思いますか(t(40)=2.17、p<0.05)」、「体育の授業では、じっくりと考えて自分の考えを深めることができていると思いますか(t(40)=2.25、p<0.05)」の2つの設問で、「協働学習」の因子を構成する「グループ学習に、進んで参加することができていると思いますか(t(40)=2.57、p<0.05)」の設問と、「タブレット端末の活用」の因子で構成する「カメラで撮った動きを見ることができたと思



ます(t(40)=2.05、p<0.05)」の設問においては、有意な差を見ることができました。詳細な分析が必要ではありますが、タブレット端末を活用した授業設計が、生徒の授業態度に何らかの変化を与えたと考えられます。